

（教育・学習機会の充実－２）

伊丹育ち合い（共育）プロジェクト （伊丹市立伊丹高等学校） <http://sns.itamachi.jp/>

〔概要〕

「若者の地域に根ざした活動が活発になれば、地域が活性化できる」という仮説を実証的に実践した取り組みです。リアルな社会活動とともに、学校と地域社会とをつなぐ仕組みとして地域SNS（「いたまちSNS」）を導入・活用し、効果を上げています。全国でも希少な教育現場への地域SNS導入事例です。地域SNSを活用することによって生徒の自発性を生み出し、その意欲に触発され地域が変わっていることを受けて、「伊丹育ち合い（共育）プロジェクト」と名付けています。

〔コラム〕

本プロジェクトは、若者が社会適応できず自信を失っていることに対して何かできないかと考え、平成15年度から高校で実施されている新しい教科である情報科で地域活性化を場とし、情報社会に適応する力（社会人基礎力）の育成をねらって企画しました。

地域での学びには、多くの人のネットワークという環境が必要です。生徒にとって学校における教員との関係だけではなく、多様な人との関わりを持つことによって苦勞も少なくありませんが、想定を越えた多くのことを学んでいます。また、商店街におけるイベント（「ハロウィンパーティ」や「100円商店街」）の場で、店主や地域の方々との共同作業を通じて人との繋がりと信頼、絆を体得しています。

地域活動を支えているのがいたまちSNSです。平成19年度から活用を開始しており、現在会員数が1856名（高校生680名、卒業生642名、一般534名、平均年齢が23.2歳：平成23年11月29日現在）。ハロウィンパーティを企画運用している9月・10月では、アクティブユーザー数（1週間以内）が296名、メッセージが2701件でした。

プロジェクトの効果としては、伊丹市役所市民まちづくり課から委託されている「伊丹市立伊丹市民まちづくりプラザ」（阪急伊丹駅3階）の活動に生徒が自発的に参加し、新しい動きを作り出していることです。例えば、市議員と一緒に障害者支援活動に取り組むなど、地域の課題に積極的に取り組んでいます。若者たちが自信（自己有用感）を持って、地域の課題に楽しみながらも果敢に取り組んでいる姿を見ることができ、地域の人たちが自分たちも頑張るんだという声を聞いていることが最大の効果と考えられます。

(取組みイメージ図)

いたみ育ちあい（共育）プロジェクト —商店街の賑わい復興活動を場として—

伊丹市立伊丹高等学校
教諭 畑井 克彦

いたみ育ちあい（共育）プロジェクトとは

市立伊丹高校の教科「情報」の授業として実施。1年生6クラス、2年生・3年生は選択授業で参加。伊丹市内の商店の中から担当する商店を、1人1店舗ずつ決め、若者の視点で、その商店に貢献する何らかの企画を立案し、実行する。
その他、商店街と一緒に各種イベントを開催。最大のイベントは、10月末に行う「ハロウィンパーティ」大学生が、高校生の授業に入り込み、一緒に活動している。（関西学院大・関西大・京都大・芦屋大）

教科「情報」 成り立ち

地域の現状

- ・ 近隣に複数の大型ショッピングモールが出店
- ・ 周辺商店街の店主の多くが市立伊丹高校出身、生徒に子弟も多い
- ・ 他府県で高校生が商店街活性化に参画

教科「情報」

- ・ コンピュータスキルの取得ではなく、「情報は人と人との信頼の上にやりとりされる」ことが基礎
- ・ 震災後のボランティア活動で培った人脈を活かしたい

活性化を通して地域の元気を取り戻すプロジェクト学習

育つ生徒像

「伊丹が好きやねん」という愛着を持った生徒

愛着は、情動、さらには他人とのコミュニケーションや対人的適応能力を発達させるための機能的準備系になると考えられる。
文部科学省
「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」

地域への愛着が社会生活の基盤をつくる

目指す力⇒社会人基礎力

（社会人基礎力を構成する3つの能力）

情報社会で生きていく力
⇒社会の中で豊かで充実した人生を送るために必要な能力

前に踏み出す力（アクティビティ）
考え抜く力（シンキング）
チームで働く力（チームワーク）

「社会人基礎力に関する研究会」の研究成果と一致

地域という場での「共育」

- 1.人のくらしが息づいている場
- 2.高校生が頑張ることによって、動きを生み出すことができる、許容量の大きい場
- 3.多様な人との関わりによって、思いもよらないことが生まれる場
- 4.社会規範が生きて機能している場

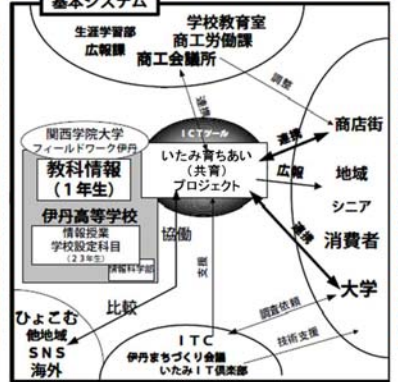
「場」が次なる「場」を生む

3者の学び合い

企画立案・取材方法

高校生 ↔ 大学生
伊丹のこと・店舗情報

刺激（アイデア）熱意（心の活性化）
現場の厳しい意見
→
店主 → ダメ出し



つながりを補完する仕組み

いたまちSNS
<http://sns.itamachi.jp/>

特徴

- ・実名登録制
- ・完全招待制
- ・後見人制
- ・顔写真の掲載

教科情報 年間計画

4月	ガイダンス・SNS登録
5月	商店街ざっくり調査
6月	店舗調査・担当店舗決定
7月	お店の良いところ探し（夏休み課題）
8月	
9月	活性化企画立案
10月	企画実施、ハロウィン準備
11月	企画評価、再立案
12月	再実施、再評価、報告書作成
1月	クラス内報告プレゼン
2月	校内発表会
3月	校外発表会

高校生がかかわった伊丹商店街の主なイベント

ハロウィンパーティ
10月最終日曜日に伊丹の商店街で開催し、延べ2,000人が来場。主催、資金負担は商店街。企画は伊丹高校が一緒に行う。商店街のあちこちにゲームブースを設け、仮装した子供たちに楽しんでもらう。受け付け、司会、飾り付け、ゲームの企画・実施や子供たちの案内など、さまざまなことを高校生が行う。高校側の企画は、主に2,3年生の「情報社会と人間」（選択科目）履修生が行い、大学生が企画や運営のサポートとして関わる。

100円商店街
店頭に100円商品を陳列し、会計を店内のレジで行い、新規顧客をお店に呼び込むことを目指した取り組み。9月と1月に実施され、高校生は担当店舗の手伝いや、プラスバンド演奏で協力。また、来客へのアンケート調査を実施し、顧客の満足度や売上の推移を調査を行った。

商店主からの御礼状

(問い合わせ先)
伊丹市立伊丹高等学校 畑井克彦
TEL : 072-772-2040 e-mail : hata3000@itami.ed.jp